

病防第43号の3
平成28年9月15日

各関係機関の長 様
(農政担当)

岐阜県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表したの、指導上の参考にしてください。

記

平成28年度病害虫発生予察注意報第3号
(ハスモンヨトウ)

平成28年度病害虫発生予察注意報第3号

平成28年9月15日
岐 阜 県

作物名 大豆、野菜類及び花き類

病害虫名 ハスモンヨトウ

1 発生地域 県内全域

2 発生時期 9月中旬以降

3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- (1) フェロモントラップにおける8月第1半旬～9月第2半旬の累計誘殺数は中濃地域で736頭(平成341.2頭)、東濃地域で368頭(平成124.6頭)、飛騨地域で136頭(平成70.1頭)と多く認められた(図1～4参照)。
- (2) 9月中旬の食害度調査(表参照)では、若・中齢幼虫による葉の食害度が高いほ場が認められ、今後、齢期の進行に伴い食害量が増加すると考えられる。
- (3) フェロモントラップによる誘殺ピークは平成9月下旬～10月上旬で、今後も発生が増加し、被害が拡大すると考えられる。
- (4) 名古屋地方気象台の1か月予報(9月8日発表)では、今後の気温は平成より高く推移すると予報されており、本虫の発生に好適な気象条件になると予測される。

5 防除上の注意事項

- (1) 大豆では新たな白変葉等、食害の発生を確認したら、直ちに防除を実施する。
- (2) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫の防除に重点を置く。
- (3) 幼虫の発生量は、ほ場ごとに大きく異なるため、必ず各ほ場での発生状況を確認する。
- (4) 施設栽培では、防虫ネットを張り、成虫の侵入を防ぐ。
- (5) 発生は露地で11月初旬、施設栽培では11月下旬まで続くと考えられるため、引き続き発生情報に注意する。
- (6) 農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。

(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm 農林水産消費安全技術センター)

【参考資料】

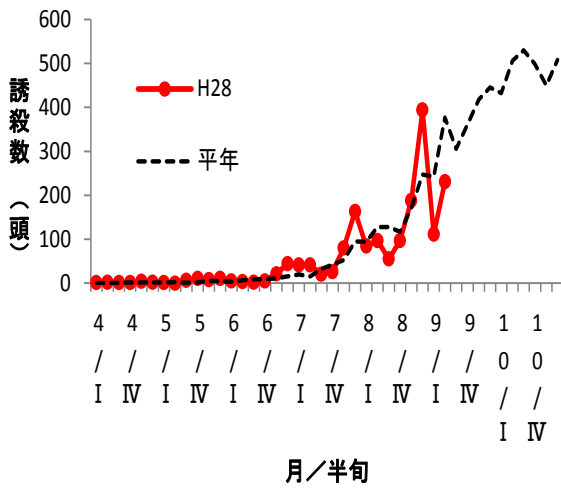


図1 岐阜市又丸(野菜)

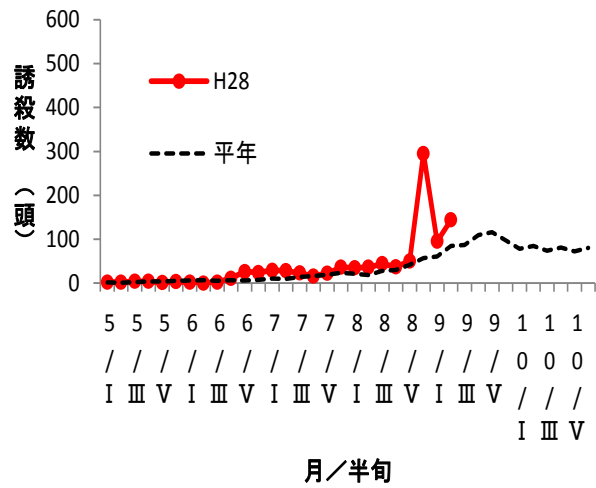


図2 可児市川合(野菜)

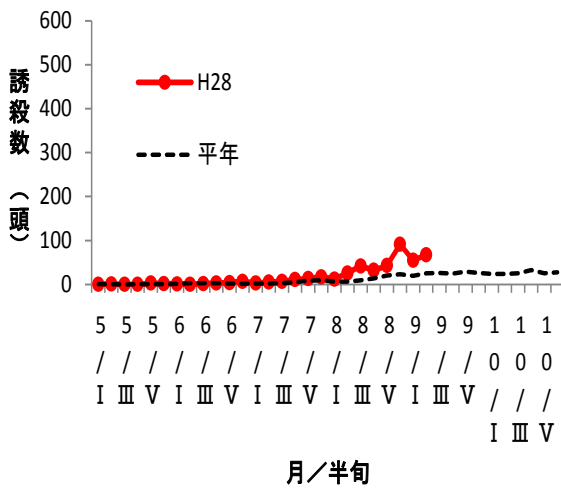


図3 中津川市福岡(大豆)

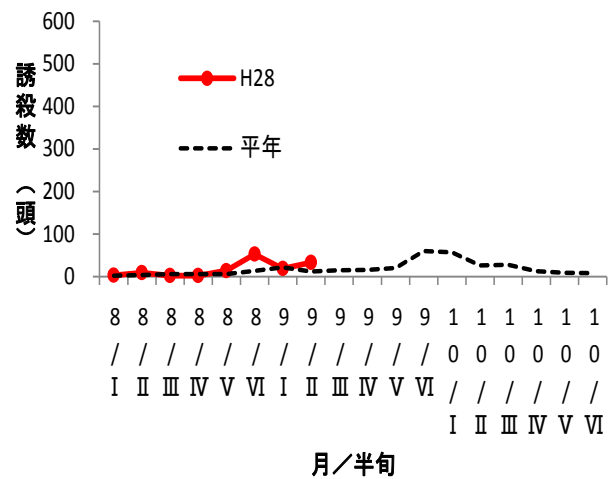


図4 飛騨市古川町(野菜)

図1～4 各地域に設置したフェロモントラップにおける誘殺数の推移

表 各地域におけるハスモンヨトウの食害度と幼虫数(調査時期9月中旬)

地点名	品目	食害度	幼虫数(50株)		
			若齢	中齢	老齢
山県市	大豆	中	32	18	1
瑞穂市	大豆	多	106	125	20
海津市	サトイモ	中	244	67	4
揖斐川町	大豆	少	32	9	1
大野町	大豆	甚	149	114	13

各地域2ほ場×25株調査

食害度は株ごとの食害面積率から求めた(発生予察事業の「調査実施基準」による)